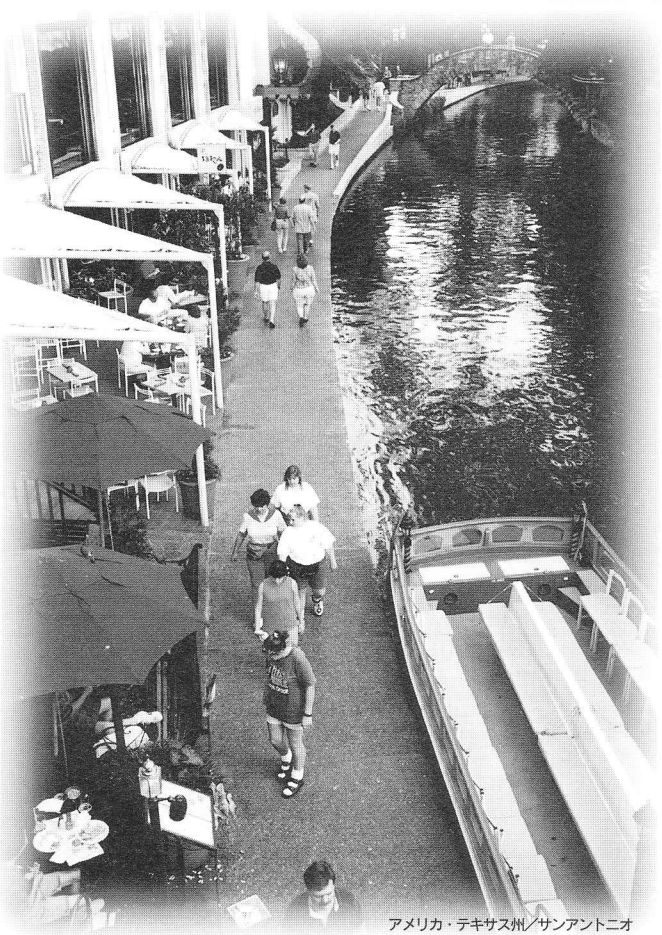
'98街づくりキャンペーン

〈水と緑と文化の街・富山をめざして〉――座談会

潤いのある水辺空間の創造をめざして

都市化とともに失われてきた水辺の潤い。豊かな水辺を失った街は、乾いた空間となり、精神的にも、経済的にも貧しくなるばかりだ。潤いのある水辺空間の創造には何が必要なのか。今回はこのテーマで座談会を開催した。



アメリカ・テキサス州／サンアントニオ

座談会

■出席者（五十音順）

青木喜代志さん（富山市荏原町内会　会長）
北山　直人さん（有）北山ナーセリー　社長）
木本　隆久さん（木本佛具店㈱　社長）
澤田　要作さん（北陸中央食品㈱　会長）
林　澄子さん（年をとらないための生活講座　世話人）
横山　真人さん（県議会議員）

■コーディネーター

中村孝一（月刊グッドラックとやま　発行人兼編集長）

治水優先で整備されてきた河川
求められる潤い創出への配慮

中村　私どもでは、この富山の街を少しでも良くしていきたいと、回を重ねて座談会を開催してきています。今まで進めてきている一つのテーマとしては、富山市のちょうど真ん中にあって市民の憩いの場となっている城址公園をもう少しいい公園にできないか、ということで、10数年前からいろいろと提案させて頂いております。

昨年、市長さんにお会いしましたら、旧公会堂・保健所の跡地に全日空ホテルと国際会議場ができることになって、ようやく城址公園も整備することになった、というお話でした。

その城址公園に沿って流れている松川や、いたち川、富岩運河、その他、各校下にはおのおの歴史のある川が流れています。そういった川べりの自然が、都市化とともに破壊され、潤いや安らぎが失われていっているわけですね。本来、川は自然の宝庫ですし、最も身近でかけがえのない自然空間です。川の可能性を最大限に取り入れた独自性のある街づくりが求められていると思いますが。

北山　そうですね。都市の中の河川とか池といった水辺のあるところは、時代に則して人間が使いやすいようにどんどん変えてきた訳ですが、特に富山の場合は、全国的にも川との闘いを強烈にやってきました。

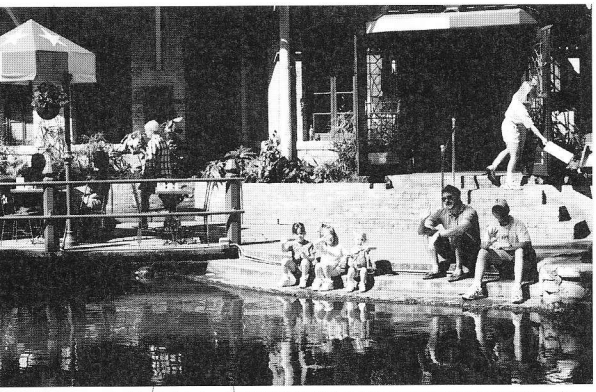
そういう土地柄の中で、今の時代になってくると、ちょっとやりすぎかな、という部分、また、やったけれど味気がなくなった部分というのが見えてきたと思うんですね。

もう少し自然を見直さなきゃいけないんじゃないかという時代的な要請もあると思うんですが、そういった水とか緑というのは本物なんですよね。本物というのはやはりいいものであるし、僕等が本物の身近にいるということは、それだけでも大変いいことであると。そういうことは皆さんわかっているんだけれど、なかなか今までの歴史の中ではやりたくてもできなかったということだと思います。

しかし、健康や精神、あるいは経済的なものを含めて、水や緑というのは、新しい時代の価値観の中ですごく大切な部分に入ってくると思うんです。

ちょっと視点を変えるだけで、素晴らしい財産になるものでないかなあと思っているんです。

木本　富山城のお堀は、今でこそ魚を釣っちゃいけないですけど、私が子供の頃は、自由にとってました。また、いかだに乗ったり、石垣を上り下りしたりと、総曲輪小学校の運動場へ行くよりお堀や城址公園で遊んだ記憶の方が



大人も子どもも、行き交う船を眺めながら川べりで楽しい時間を過ごす。／サンアントニオ川

朝日印刷紙器㈱

まだまだ殺風景な松川べり。

●青木喜代志さん

●北山直人さん

●澤田要作さん

はるかに多いですね。

　当時はお堀に氷が張っていまして渡ったこともあります。今は井戸水が出ていますから、氷が張ることはありませんけど。松川も向こう岸まで渡ることがざらにあって水と親しめる場だったと思います。

澤田　私が21年に復員してきた時には、今41号線が通っている所にまだお堀があって、水がたまっていましたね。

木本　それと、先程、北山さんもおっしゃいましたが、私は、昭和40年代ぐらいに水との闘いはもう終わって水を克服したんじゃないかと思っていたんですね。克水したから、次の段階で克雪が始まったと。

　ところが、どうも昨今の状況を見てますと、まだまだ水を有効に活用していないといいますか、生活の中に取り入れてない面もあると感じますね。というのは、松川は小さい川なのに、水位が完全に調節されてないんですよね。ですから、せっかく石畳の遊歩道ができても、雨の多い日は完全に石畳の上に水が上がってしまっています。水が減った後は後で、ヘドロが遊歩道に残って汚くてとても歩けませんし、中途半端というか、宝のもちぐされです。京都の高瀬川でないですが、松川ぐらいの川だったらやはり完全に水位を調整して管理できるところまで持っていかなきゃならないんじゃないかと思いますね。

中村　澤田さんは、以前、松川に歩道橋を架けたらいい、というご提案をされてましたね。

澤田　ええ。塩倉橋や桜橋の交通が非常に激しく、学生やお年寄が危険だということで、佐藤工業と金茶寮の間に、市議会議事堂に至るアーチ型のデザインの歩道橋を架けて欲しいということで、だいぶ陳情したりしておりました。しかし、結局、華明橋を広くするということで、歩道だけの橋ができなくて大変残念に思っています。

市民が構想段階から参加し行政と一緒に活用を考えるべき

横山　私は、水や緑や自然というものが破壊された経緯というのは、官主導型のものの発想で、「つくってやる」というか、「与えてやる」というか、そういうふうにきたものだから、どうしてもそこに住んでいる、あるいは、利用している人の気持ちや歴史、そういうものが反映されないんだと思うんです。

　いよいよ平成10年度から、城址公園の構想を練るための準備がされるそうですが、やっぱり構想段階から市民が参加して、時間をかけて、一緒に管理や活用を考えていくというふうにし

サクラパックス(株)

ないといけないと思っています。

中村　その通りです。

ところで、青木さんがいらっしゃる笹原町内には半俵川という川が流れていて、大雨になると氾濫するため改修することになった時に、川沿いの立派な松の木が伐採されかかったことがありましたね。

私もこれは応援しなければと、座談会に当時の会長さんに出席して頂き、幸い行政側を説得されて自然を極力残した川にすることに成功されたそうですが、非常に皆さん、思い入れがあるように感じるんですが。

青木　大雨による浸水が多いものですから、昭和50年頃から、川幅を5mから10mに拡幅するという話になりまして、その時に川べりの松の木を切るということになったんですが、そりゃ困ると。

川幅を広げてもらうのは結構ですが、明治の頃からある樹齢150年の松の木を今切ると、150年後にならないと同じものが見れないということで反対しました。結局、川幅を10mから7mに縮め、3m川を東に曲げて、松の木は全部残ったという話です。

その後、藤の木校下と新庄校下を合わせて、沿線3000所帯で「半俵川をきれいにする会」をつくり、「川をきれいにする日」を設けて、みんなで川底の空き缶などを拾っています。平成6年にやった時には、2tトラックに10台近くのゴミが出ましたが、今では、2tトラックに1台ぐらいに減っています。川にゴミを捨てる人が少なくなったんですね。将来、下水が完備されますと、子供たちが遊べる川になると思います。

何かが足りない中途半端な富山の街

●木本隆久さん

中村　やっぱり、川や川べりは、自分たちのものだ、という意識で、美しくしていくことが大事ですね。

●林 澄子さん

林さんは、いつも若くありたい、という会の会員650人の中でも、川べりに美しい自然を取り戻すことに一番ご熱心ということですが。

林　私は、夏だと5時に起きて、1時間から1時間半ほど、城址公園・松川の辺りを歩くんですが、いつもあまりにも平凡な公園じゃないかと思うんですね。金沢へ年5～6回行きますけれどね、あそこの美術館から出た所に、せせらぎがあるんですね。一週間かけて、一つ一つの石をたわしで洗ってね。

中村　兼六園の曲水でしょ。あそこは手入れが凄いんですね。

林　富山にもああいったものが欲しいなって思ったんですね。自分達の町は、自分達の力できれいにするということが素晴らしいと思います。

それから、以前、東北に行きました時、青葉城の土井晩翠の銅像の前でバスガイドさんが説

●横山真人さん

改修前の半俵川

毎朝掃除されるサンアントニオ川／アメリカ・テキサス州

明して下さって、それが終わった時に、100何十人の皆さんが一斉に「荒城の月」を歌い出したんですね。そして、歌い終わった時には、皆さんの目に涙がいっぱいあったんです。その光景を見た時に、何で富山にこういう素晴らしい所がないんだろうかと思いました。

例えば、富山で育った滝廉太郎さんの像を建てて、歌碑があれば、紙を見なくても、歌碑を見ただけで歌が出てくる。そうなれば、その人達にとって一生忘れえぬいい思い出になると思いますね。

とにかく、あの時の思わず知らず歌を歌ったあの光景が素晴らしく、忘れられなくて、どこか城址公園のあたりにそういうものができたらと思っているんです。なんで富山の街に観光バスが止まらないんだろうか、と思いますけれど。

中村　悔しいですよね。県外から富山へ来られて街を見られると、やっぱり、中途半端といいますかね、何か物足りない、とおっしゃる方が多いですね。例えば、同じ川べりでも、岡山県の倉敷川は松川の半分ぐらいの川ですが、柳の木がうまく植えられていてなんか情緒がありますよね。しかも、長さはせいぜい300mほどで、あれだけのものを作りだしている訳ですね。やはり、人間の手で工夫することが大切だと思います。

北山社長から以前ご紹介頂いたアメリカのテキサス州にあるサンアントニオにしても、川べりの自然が大変美しいんですね。まるで街の中に森林公園があるような錯覚を覚える程、潤いと安らぎが感じられるんですね。

兼六園の掃除。ひとつひとつの石まで丁寧に磨かれる。

曖昧な「自然」という言葉どの程度の自然が良いのか

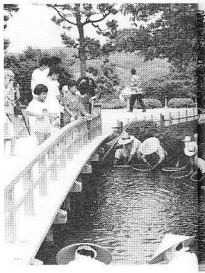
木本　自然を取り入れると言いましても、私たちは「自然」という言葉が曖昧なんですね。立山連峰の大自然も自然ですし、ちょっと手の入ったものも擬似的ではあれ自然ですし、京都の庭園や兼六園のような徹底的に手の入ったものも自然なんですよね。どの程度の自然がこの城址公園や松川べりにはいいのかということを決めていかないと…。

中村　本当にそのとおりだと思いますね。人間は結構身勝手なところがあって、イメージ的に自然がいっぱいのところがいいと思っていますけど、本当のというか、現実の自然というと、草がボウボウだし、いばらも生い茂って、人が入っていけませんよね。蜂なんかも巣を作ったり、蛇もいるでしょうし。

しかし、まさか街中にそんなすごい自然を望んでいる人はいないと思います。イメージとして緑があって、花が咲いていて、小川が流れていて、人間にとってちょうどいい自然を求めているんだと思うんですね。

北山　城址公園や松川べりのような完全な都市の中の公園の場合は、やはり周りのコンクリートジャングルの中のオアシス的な役目がすごく大切になってきますね。木陰もあれば、水もある。そして、人が集まってくると。そういう要素がすごく必要になってきますね。

それともう一つ、名所というのも必要になってきます。清らかな川が流れている県や街をイメージできるようなね。例えば、サクラマスが泳いでいる



川。マスが泳いでいる川にするには、それだけ水量も水質もきちんと管理されていないとできないんですね。

よく夏場になると、郡上八幡で、橋の上から子供がドボンと飛び込んでいる。要するに、泳げる川なんです。それが、踊りもあるけれど、イメージとして、清らかな川が流れている街の印象になり、象徴になっています。そういう本質的に価値のある何かが一つ必要になると思いますね。

木本　サンアントニオ川の写真を見ていて、いい所は、みんな川に向かって建物を建てている点ですね。しかし、これをやるには、先程も言いましたように、水位を調整できないといけないんです。子供たちが川べりに座っている写真がありましたが、このように安心して座れるには、水位を常に安定させておく仕掛けが必要です。遊歩道から水を上げてはいけませんね。

街を良くしていくのは結局はそこに住む市民

林　京都へ行った時、松川ぐらいの川があって、きれいな水だなあと、私、思わず手を入れたんです。そして、砂をすくったら、すーっと砂が流れていって、上にシジミ貝が残ったんですね。おととしのことです。昔、富山にもこういうところがいっぱいあったんですよね。なんで富山から消えたんだろうなあと思いました。

中村　やはり、私達の街に美しい自然を取り戻せるかどうかは、私たち一人一人にかかっているんだと思います。

青木　その通りですね。やっぱり市民のやる気だと思います。地元にいらっしゃる方がこうして欲しいと強力におっしゃれば、その通りになると思いますよ。

中村　今までそういう強力に言ってこなかったということなんでしょうね。

青木　そうです。言ってこなかったということでしょうね。

中村　この松川については、富山市の中心を流れている川ですし、その歴史性と自然の美しさを復原し、それを大切に保存していかなければならないと思います。

横山　そうです。県都富山市のシンボル、松川をきれいにして、城址公園と合わせて素晴らしい都市公園にしましょう。年間100万人以上が見にくるようなね。私も大いに協力しますから、市民の声を集めて下さい。やりましょう。

林　その通りですね。これまでは県や市に言っても、結局、途中で諦めることが往々にしてありましたけど、市民の力を一つにまとめることが大切ですね。

中村　そうなんですね。皆の声を一つにし、一致団結して、美しい川を取り戻すために一緒に努力していきましょう。

25年の実績と眼科専門医による
トータルケアで安心をお届けする

特別価格で提供中
30%～OFF

土田コンタクトレンズ

富山市西町5-18
大和デパート太田口通り側
☎(0764)25-8765